

目次

1. 新設組織の概要
2. 人材需要の社会的な動向等
3. 学生確保の見通し
4. 新設組織の定員設定の理由

1. 新設組織の概要

(1) 新設組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）

新設組織の名称は、「福岡県立大学人間社会学研究科人間社会学専攻」とする。入学定員は 15 名、収容定員は 30 名とする。教育研究を行うキャンパスは、福岡県立大学の所在地とする。

新設組織	入学定員	収容人員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
福岡県立大学大学院 人間社会学研究科人間社会学専攻	15	30	福岡県田川市伊田 4395 番地

(2) 新設組織の特色

福岡県立大学大学院人間社会学研究科は、新設組織として「人間社会学専攻」を設置する。わが国は超少子高社会に突入にしており、それに付随する種々の社会問題も深刻化の様相を呈している。コロナ禍以降、人々の暮らしは複雑化・多様化を極めており、時代の急速な変化に対応した高度福祉社会の実現に貢献することができる専門人材の養成が求められている。福岡県立大学大学院人間社会学研究科は、新たに「人間社会学専攻」を設置して、よりグローバルな視点に立った社会福祉・心理臨床・子ども教育の高度専門職業人及び研究者の養成に向けた大学院教育を行い、豊かな人間性と高度な専門性を兼ね備えたヒューマン・ケアのエキスパートとなる優秀な人材の輩出を目指していく。

福岡県立大学大学院は、平成 8 年 12 月に設置認可を受け、平成 9 年 4 月に人間社会学研究科（修士課程）を開設した。人間社会学研究科は、社会福祉専攻（定員 6 名）、心理臨床専攻（定員 6 名）、子ども教育専攻（定員 3 名）の 3 専攻で構成されており、それぞれが独立した組織として長年にわたり各分野をリードする高度専門職業人及び研究者を数多く輩出してきた。

近年では、大学院志願者に占める社会人の割合が増加しており、現場の専門職として従事しながら、大学院で研究を行うことを希望する学生が増えている。その学修ニーズも多様化しており、学部や他専攻の授業を履修する学生が増えるなど、あらゆる社会問題に対応することができる高い実践力と幅広い専門性を志向する傾向にあり、時代はジェネラリストとして広域的かつ包括的な専門性を有する高度専門職業人並びに研究者を求めていることがわかる。

以上を踏まえ、福岡県立大学大学院人間社会学研究科は、社会情勢を踏まえた多様なニーズに対応すべく、これまでの 3 専攻をコースとし、社会福祉コース、心理臨床コース、子ども教育コースの 3 コースからなる「人間社会学専攻」の一専攻とする。各コースの特徴を最大限に活かした高度な大学院教育を提供するとともに、人間社会学専攻として一体的な人材養成を行っていく。なお、人間社会学専攻の入学定員は 15 名とし、入学者選抜を通して高度福祉社会の実現に貢献することができる優秀な人材を確保していきたい。

2. 人材需要の社会的な動向等

(1) 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

今回新設する人間社会学研究科人間社会学専攻は、上述のように既存の3専攻（社会福祉専攻、心理臨床専攻、子ども教育専攻）を統合し、1専攻化した上で、専攻内にそれぞれをコースとして配置するものである。一つの専攻として、社会の動向、地域の要望に合わせて、各コースの学生数を変動させながら、1専攻として各コースに所属する多くの教員がコースの垣根を越え、すべてのコースの学生に対して幅広い教育を提供できることが本専攻の特徴である。

これまで本学心理臨床専攻においては、公認心理師、臨床心理士の養成課程を担っているため心理職を志す、大学を卒業予定の学生や卒業後数年以内の若年の受験生が多い状況が続いている。また、現在のところ全国的に公認心理師の受験資格に対応した大学院の受験者数は増加の一途を辿っており、社会的ニーズは高い状態である。

一方、社会福祉専攻と子ども教育専攻では現職院生が中心となっていた。この2専攻では、現職の院生が在学生のほとんどを占めることに特徴がある。

令和5年12月に公開された学校基本調査の結果では、大学院進学者数が平成31年3月以降増加し続けていることに加え、大学院進学者に占める就職している者の数は平成31年から令和2年にかけて倍増し、現在もその水準を維持しており、本学の社会福祉専攻（コース）や子ども教育（コース）のように現職者が専門職としてのさらなるスキルアップを目指して進学するというパターンが全国的な動向としてあり、それが今後も続いていくことが考えられる。また同調査において、保育園における女性管理職数の推移も右肩上がりであることが示され、令和5年では68.2%に及んでいる。本学の人間社会学部人間形成学科子どもコースも、人間社会学研究科子ども教育専攻でも、在籍学生のほとんどが女性である。保育園の管理職として、保育実践と調査研究を介した理論の実証の往還による保育の質の向上、管理職としてのスキルアップは女性の社会進出という点からもニーズが高いものであると考えられる。福祉コースにおいても、女性の社会人院生の割合は高く、同様の状況が十分に考えられる。このように本学人間社会学研究科人間社会学専攻及び同専攻が輩出する人材に対する社会的ニーズは高いものがあるということが想像に難くない。

(2) 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

先述した学校基本調査によると、日本の18歳人口は平成4年をピーク（約2000,000人）として低下し続け、令和5年ではピークの半数近くまで減少している。一方で、高等教育進学率は右肩上がりであり、令和5年は80%を超える状況にある。全国的には超少子高齢化社会の進展が止まらないものの本学は学部、大学院ともに九州地区にとどまらず西日本を中心として全国から学生が集まっている状況が続いていることに加え、現状子ども教育専攻、社会福祉専攻も現職院生が多い状況が続いており、1専攻3コース体制化した後も、同様の状況が見込まれる。公立大学の学費のリーズナブルさという点も、本学が位置する福岡県筑豊地方の経済水準ともマッチし、進学者数を維持できている要因である。

高度の少子高齢化が進展し続ける昨今、一人ひとりの子どもとその子どもを養育する保護者、そしてその子どもが所属する学校、地域の在り方などを多角的視点（福祉・心理・教育）から丁寧にアセスメントし、全人的な教育とケアを提供できる高度職業専門人の養成や、福祉

士、心理師（士）、幼稚園教諭・保育士の円滑な多職種連携ができるような教育体制を提供するという本専攻の設置理念は社会のニーズに高いマッチングを示すものである。

さらに変動し続ける社会状況に伴い、社会のニーズや受験者のニーズの変動も激しくなっていくことが予測される。1専攻3コース化によって、コース内の学生数を柔軟に変更できることは、この変動する社会的ニーズに高く応えることを可能にする。

（3）新設組織の主な学生募集地域

今回の改組は元来有していた社会福祉専攻、心理臨床専攻、子ども教育専攻を1専攻3コース制にまとめるというものであり、従来と学生募集地域の設定に変更はない。令和5年度において、社会福祉専攻は定員6名に対して、志願者8名、心理臨床専攻は定員6名に対して17名と定員を上回った。一方、子ども教育専攻は定員3名に対して志願者1名と、定員割れをしたものの、研究科全体としては募集定員15名に対して、志願者26名と大きく上回った状況である。今回の改組で、1専攻3コース制とし、3コースの学生の内訳を専攻の定員の中で柔軟に振り分けることで、志願者にとってはより受験しやすい大学院となることが予測される。

また、大学院入学者の出身地域別のデータはないものの、令和4年度の本学アニュアルレポートで、令和5年度の学部入試において、九州・沖縄を中心とした西日本、そして数は少ないものの北は北海道まで日本全国から入学者がある状況が報告されている。本学の学部生が本学大学院を受験するケースも多く、本学人間社会学研究科人間社会学専攻は、日本全国から入学者を募ることができていると考えられる。

社会福祉コース、子ども教育コースでは現職院生が入学するケースが多く、その多くは福岡県での職をもった学生であるが、心理臨床専攻は全国から新卒者が入学している状況であり、1専攻3コース制として、現在の全国規模の学生募集は妥当なものであると考えられる。

（4）既設組織の定員充足の状況

先述した通り、令和5年度において、社会福祉専攻は定員6名に対して、志願者8名、心理臨床専攻は定員6名に対して17名と定員を上回った。一方、子ども教育専攻は定員3名に対して志願者1名と、定員割れをしたものの、研究科全体としては募集定員15名に対して、志願者26名と大きく上回った状況である。今回、従来の3専攻を1専攻3コース体制にすることで、福岡県立大学大学院人間社会学研究科人間社会学専攻は定員を満たしていくことが予測される。これは、以下の項目「3. 学生確保の見通し」で詳述するように、従来の各専攻の競合校とは一線を画す、本校の強みとなる。

3. 学生確保の見通し

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

大学院の2023年度のオープンキャンパスの来場者数は、現行の3専攻合わせて夏15名、秋7名であった。夏の参加者の内訳は、教員個別相談5名、院生個別相談3名、模擬授業7名であった。その他、オンラインでのオープンキャンパスの参加は、7名であった。秋の参加者の内訳は、教員個別相談4名、院生個別相談3名であった。加えて、大学院の授業参観ウィークの体験授業参加者は3名であった。

大学院の資料の送付を毎年関係自治体、大学、就職先に送付しており、2023年度は838カ所であった。その際、大学院の案内、リーフレット、チラシを送付し、周知している。

その他、周知のための広報は、ホームページの活用、本学設置自治体の広報誌での広報に留まっていたため、2024年度より新たにSNSの活用について検討を始めている。

また、直接的な広報の主旨ではないが、各専攻においてリカレントセミナーを実施しており、参加人数の違いはあるが、大学院受験者確保の一環にもなっている。

上記の結果、2023年度入学生および、2024年度入学生は、それぞれ16名、15名となっており、定員の15名の確保となっており、目標を達成できている。

イ 新設組織における取組とその目標

(3) ①アの分析結果を踏まえ、新設組織(1専攻3コース制)になった際も、引き続き上記の取り組みを実施する計画である。

その際、2025年度入試に向けては、新たな入試形態に応じたオープンキャンパスの開催や、SNSの活用を力を入れ、新課程における定員15名の充足を目指していく。

具体的には、6月に行われる大学院における授業参観ウィークの周知、8月に開催されるオープンキャンパスのための大学院案内、リーフレット、チラシの作成及び郵送、各コースにおけるリカレントセミナーの実施(社会福祉コース12月、心理臨床コース毎年6回、子ども教育コース11月)の実施を計画している。

また、SNSにおいては、YouTube、Instagram、Facebook等の活用を計画しており、学部卒業生に対応したSNS及び、社会人入学者にも対応したSNSの活用を計画し、実施していく。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

(3) ①ア及びイの計画、実施により、新設組織においても同様の入学者数の確保が可能と考える。オープンキャンパスにおいては約10名、大学院案内等の郵送、リカレントセミナー、SNS活用においては各2名の見込み数である。

(2) 競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

本大学院は3専攻科から、1専攻3コース化することで、競合校がなくなると考える。福祉・心理・子ども教育が複合的、総合的に学べる専攻は全国的にも例を観ない。また、本大学院同様の公立大学大学院においては、定員を充足しているところは本校を除いてないことが確認できた。以下、ア、イ、ウにおいては、本学と同様に1専攻3コース制を敷いている大学院は競合校として選定できなかったため、各コースに類似する大学院を競合校と想定して、記載する。

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

競合校の選定理由は、以下の点であり、福岡県を中心に記載する。しかし、必要に応じて九州圏内の大学院も比較対象とする。

- ① 公立大学法人、または国立大学法人の競合校との分析。
- ② 本大学院各コースと類似するカリキュラムを有している競合校の分析。
- ③ 本大学院各コースにおける私立大学院の競合校の分析。

① 公立大学法人においては、福岡県内には本大学院しかなく、競合校は存在しない。また、国立大学法人においては、九州大学大学院、福岡教育大学大学院がある。九州大学大学院は、本大学院の心理臨床コースとの競合校と考えられるが、1専攻3コース制になることにより、競合校ではないと考える。福岡教育大学大学院は、教職大学院となっており、本大学院子ども教育コースにおける保育・幼児教育に該当するコースはなく、九州大学大学院と同様に1専攻3コースになることから競合校ではないと考える。

② 本大学院と類似するカリキュラムを有している大学は、私立大学大学院の西南学院大学大学院である。本大学院の新設組織である人間社会学研究科人間社会学専攻（社会福祉コース、心理臨床コース、子ども教育コース）と類似する西南学院大学大学院は、人間科学研究科人間科学専攻、臨床心理専攻を有しており、福岡市に位置している。本大学院の社会福祉コース及び子ども教育コースと類似する人間科学専攻は、10名の定員であり、2023年度入学生6名、2024年度入学生2名となっている。また本大学院の社会福祉コース、子ども教育コースは、社会人入学生が多い傾向があるが、人間科学専攻は社会人の割合が少なかった。本大学院の心理臨床コースと類似する臨床心理専攻は、8名の定員であり、2023年度入学生2名、2024年度入学生8名となっている。本大学院の心理臨床コースも臨床心理専攻と同様に心理臨床専攻であった既設組織の際も定員を充足しており、同様の傾向にある。ただし、立地場所は、田川市と福岡市と場所を異にしている。

③ 社会福祉コースにおいては、県内における競合校はないが、山口県立大学大学院健康福祉学研究科健康福祉学専攻が公立大学法人として競合校と考えられるが、10名の定員であり、2023年度入学生は2名であり、2024年度の合格者数は7名であった。心理臨床コースにおいては、福岡大学大学院人文科学研究科教育・臨床心理専攻が私立大学として競合校として考えられるが、15名の定員であり、2022年度入学生は9名、2023年度入学生は6名であった。子ども教育コースにおいては、中村学園大学大学院教育学研究科、福岡女学院大学大学院人文科学研究科発達教育学専攻が私立大学として競合校として考えられる。中村学園大学大学院は5名の定員であり、2023年度入学生は5名、2024年度入学生は4名であった。福岡女学院大学大学院は、定員5名であり、2024年度入学生は0名であった。中村学園大学大学院及び、福岡女学院大学大学院は定員を満たしていない傾向にあり、立地場所においても、田川市と福岡市と立地を異にしている。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校となる他大学院の過去3年間の入学志願状況などは以下の通りであるが、一部各大学院のホームページからはデータが収集できていない箇所や、その内容に明らかな誤表記があるもの

はそのままとしている。

②における西南学院大学人間科学研究科人間科学専攻及び、臨床心理専攻のデータである。

・人間科学専攻

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
2022 年度	5		4	4	40%
2023 年度	8		7	6	60%
2024 年度	5		2	2	20%

・臨床心理専攻

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
2022 年度	30		4	8	100%
2023 年度	10		4	2	20%
2024 年度	17		9	8	100%

本大学院においては、近年2年間において定員を満たしていることを鑑みると、特に社会福祉コース、子ども教育コースにおいては、充足する可能性が高く、心理臨床コースにおいても西南学院大学大学院の隔年での充足率をみると、定員を満たす可能性があると考えられる。

③における本大学院の各コースと競合する大学院のデータである。

○本大学院社会福祉コース

・山口県立大学大学院健康福祉学研究科健康福祉学専攻

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
2022 年度					
2023 年度	3	3	2	2	20%
2024 年度			7		

山口県立大学大学院のデータの収集状況は、不十分ではあるが、10名の定員に対し、充足している状況は読み取ることができなかった。2023年度の充足率は、20%であり、2024年度の合格者7名が全て入学していたと仮定したとしても70%であり、100%以上の充足率にはなっていないことが予想できる。本大学院社会福祉コースは、現職者の入学が主であるが、山口県立大学大学院を競合校とした場合においても、問題なく定員を充足することが可能であると考えられる。

○本大学院心理臨床コース

・福岡大学大学院人文科学研究科教育・臨床心理専攻

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
2022 年度				9	60%
2023 年度				6	40%
2024 年度	30		8		

福岡大学大学院のデータの収集状況は、定員15名に対し2022年度、2023年度は、40%から60%となっており、2024年度の合格者8名が全て入学していたと仮定したとしても53%であり、

過去3年において充足していない現状であると判断する。本大学院の心理臨床コースは、専攻時より常に充足しており、福岡大学大学院を競合校とした場合において、コースとなった際にも問題なく定員を充足することが可能であると考える。

○本大学院子ども教育コース

・中村学園大学大学院教育学研究科

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
2022年度	6	6	6	6	120%
2023年度	5	5	5	5	100%
2024年度				4	80%

・福岡女学院大学大学院人文科学研究科発達教育学専攻

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
2022年度				0	0%
2023年度				0	0%
2024年度				0	0%

中村学園大学大学院のデータの収集状況は、2024年度は不十分であるが、2022年度以降充足率は低下傾向にあり、入学者の内訳は半数以上が社会人となっている。また、福岡女学院大学大学院のデータの収集状況は、入学者数において明らかとなり、過去3年間は0名となっている。本子ども教育コースにおいては、専攻時には募集に苦慮していたことは否めないが、競合校の現状を把握した結果、保育、幼児教育における大学院は定員を充足することへの困難さがあり、子ども教育専攻としてではなく、福岡県立大学人間社会学研究科人間社会学専攻として3コース制となる中で、コースの定員15名を社会福祉コース、心理臨床コースとともに充足することは可能であると考えている。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

ア及びイを踏まえ、本大学院の新設組織は、定員15名を2023年度入学生、2024年度入学生においては充足しており、競合校として挙げた上記②③において、一部の大学院においては、定員を充足しているが、充足していない大学院も多く存在しており、1専攻3コースという新設組織の強みである隣接領域3コースの専門科目をコースをまたがり履修可能であり、立地場所における差別化、学生のニーズを踏まえた広報活動をさらに積極的に行うことにより、2025年度以降においても充足の可能性を示すことができるものと考ええる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

公立大学法人であり、既存の3専攻から1専攻3コースへの変更であることから、学生納付金等の金額設定は、上記アからウを鑑みても金額設定の変更は、行わない。

(3) 先行事例分析

該当なし。

(4) 学生確保に関するアンケート調査
実施しない。

(5) 人材需要に関するアンケート調査等

新設する専攻の内の社会福祉コース、子ども教育コースにおいては、現職院生が中心となる現状は変わらないことが予想される。本申請に基づき、新たにアンケート調査を行わないが、2(1)で示した令和5年12月に公開された学校基本調査の結果を踏まえると、大学院進学者数の増加及び、大学院進学者に占める職を有している者の数は倍増し、その水準は維持されていく見通しである。本大学院においても、社会福祉コース、子ども教育コースでは、現職者が専門職としてのさらなるスキルアップを目指して進学するというパターンが全国的な動向と同様の動向を辿ると考える。また2(1)で同様に示したが、保育職における女性管理職数の推移も増加傾向であり、現在の子ども教育専攻においても、在籍学生のほとんどが女性であり、修了後は施設の管理職としてのキャリアアップや管理職としてのスキルアップを後押しし、女性の社会進出という点からもニーズは引き続き高いものであると考えられる。社会福祉コースにおいても、女性の社会人院生の割合は高く、同様の状況が十分に考えられ、本大学院社会福祉コース、子ども教育コースにおいて社会的ニーズは、高いものであると考える。

また既設組織における心理臨床専攻は、今までも公認心理師、臨床心理士の養成課程を担っており、心理職を志す、大学を卒業予定の学生や卒業後数年以内の若年の受験生が多い状況が続いている。加えて全国的に公認心理師の受験資格に対応した大学院の受験者数は増加の一途を辿っており、社会的ニーズは高い状態である。

以上を踏まえ、新設組織である人間社会学研究科人間社会学専攻は、3コースとも高い社会的ニーズがあることから、学生確保の見通しや競合校との比較、本大学院の定員充足率を踏まえ、社会的なニーズを満たす人材輩出を今後も可能にするものである。さらに、3コースになることにより、専攻毎の取り組みではなく、専門領域をまたがったカリキュラムを編成し、他にはない需要を見込み、中心的な領域を踏まえつつも福祉、心理、教育の各領域を横断的に学ぶことができることとなり、社会的な課題解決における広い視野を持った人材の輩出に寄与できると考える。

4. 新設組織の定員設定の理由

福岡県立大学大学院人間社会学研究科の新設組織である人間社会学専攻は15名を定員として設定する。以下、その定員設定の理由について述べる。

従来、福岡県立大学大学院人間社会学研究科は三専攻で構成されており、定員については社会福祉専攻6名、心理臨床専攻6名、子ども教育専攻3名で設定されていた。専攻毎での定員設定となっているため、出願者数や合格者数、さらには入学手続きを行う者の数は専攻で状況が異なり、定員充足率については専攻間で差が生じていた。そのため、人間社会学研究科全体で見ると、令和3年度まで定員充足率100%を満たしていない時期が続いた。

時代の急激な変化により、社会福祉・心理臨床・子ども教育の各分野では、高度専門職養成に対する社会的ニーズが高まる一方で、大学院への志願者層も各分野により状況が異なることから、令和4年度からはアドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するため、入学者選抜方法の検証と改善を行った。その結果、人間社会学研究科の定員充足率が2年連続で100%に達し

た。ただし、各専攻により志願者の人数が異なるため、定員を充足していない専攻も存在する。今後も人間社会学研究科が高度専門職業人の養成を中心に行う大学院として、その社会的責任や役割を果たしていくためには、社会情勢を見極めたうえで柔軟かつ臨機応変に時代に対応した人材養成に取り組んでいくことが求められている。

そこで、これまで3専攻に分かれていた人間社会学研究科は、これらを統合して新たに「人間社会学専攻」を組織し、その専攻内に社会福祉コース・心理臨床コース・子ども教育コースを設置することで、より時代の要請に見合った総合的な人材養成に取り組んでいく。定員は人間社会学専攻で15名とし、出願状況や多様な入学者選抜を通して、将来性のある優秀な人材の確保を行っていく。超少子高齢社会に突入したわが国は、まさに激動の時代の中にある。人々の生活様式も目まぐるしく変動していく社会において、人間社会学専攻では社会福祉、心理臨床、子ども教育の分野において、ヒューマン・ケアの視点から社会を牽引していく高度専門職業人ならびに研究者の養成を行っていく。